

政策番号	12	政策分野	国際化
------	----	------	-----

基本方針	1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。
------	--

担当局	総合企画局	共管局	産業観光局
-----	-------	-----	-------

政策に関する 主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン 京都観光振興計画2020+1 京都市MICE戦略2020
--------------------	--

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		平成23 評価値	令和2 目標値	平成 30	令和 元	令和2年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	京都市国際交流会館登録ボランティア数(人)	421	800	a	a	728	787	769	102.3%	a
2	コンベンション開催件数の世界順位(位)	56	35	a	a	41	35	37	105.4%	a
				a	a					a

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	平成30	令和元	令和2
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信(1指標)	c	c	b
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進(2指標)	a	b	b
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進(2指標)	b	b	b
(3施策平均)		b	b	b

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	平成30	令和元	令和2
	a	a	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		平成30	令和元	令和2※
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	b	-
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	b	b	-
3	国籍、民族、文化等が違ってても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。	c	c	-
4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	b	b	-
政策の市民生活実感調査総合評価		b	b	-

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

平成30年度		令和元年度		令和2年度※	
順位	%	順位	%	順位	%
22	76.3%	23	71.3%	-	-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

＜総合評価＞

平成30	A	令和元	B	令和2	B	政策の目的がかなり達成されている
------	---	-----	---	-----	---	------------------

＜原因分析＞

【客観指標総合評価】

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

【市民生活実感調査総合評価】

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

【総括】

・「コンベンション開催件数の世界順位」が41位から35位に上昇するなど、客観指標総合評価がa評価を維持する一方、「京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。」という市民生活実感総合評価はb評価で推移しており、総合的に判断して当該政策の目標はかなり達成されていると評価できる。

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)＞

施策番号	施策名	総合評価		
		平成30	令和元	令和2
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	B	B	B
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	A	B	B
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	C	C	C

＜今後の方向性＞

①世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信

・世界の人々を引き寄せるまちの実現に向け、文化、産業、大学、環境等、京都が持つ魅力を世界に発信するとともに、安全情報をはじめとした各種の行政情報などの多言語化、MICE推進体制の強化、国際交流の拠点・コンベンション機能の充実や受入環境の整備を推進する。
・「京都市MICE戦略2020」は令和2年度に最終年度を迎え、新たな戦略は次期観光振興計画の中で定めることから、計画策定に向けた検討を進める。

②市民主体の国際交流・国際協力の推進

・世界歴史都市会議をはじめとする世界会議における「京都」の発信や友好交流都市(姉妹都市・パートナーシティ)をはじめとした各都市等との国際交流・国際協力を推進し、国際社会に大きく貢献するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、市民、民間レベルでの国際交流の定着を進める。

③外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進

・外国籍市民総合相談窓口における相談事業、外国籍市民を対象とする情報提供や地域社会で活躍できる機会の拡充等に取り組む。
・「多文化共生のまちづくり推進プロジェクトチーム」において、企業等における外国人材の受け入れに係るニーズを把握し、外国籍市民と市民生活や地域コミュニティとの調和等に向けた方策を検討する。
・国際交流会館で実施するオープンデイ等の催しやセミナー、京都市内の大学に在籍する留学生を小・中学校に派遣する「PICNIK」等により、国際理解を促進することで、多文化共生に対する市民の実感を高める。
・公の施設等の使用手続に関するガイドラインを適切に運用するとともに、ヘイトスピーチの解消に向けた啓発などに取り組む。

・上記①～③について、「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」は令和2年度に最終年度を迎える。その後継となるものについて、現プランの在り方から見直し、今後の本市の国際情勢を巡る方針等を市民や国内外の各種団体、関係機関に示すために、新たに「京都市国際戦略指針(仮称)」を策定することとしており、策定に向けた検討を進める。

政策名	12	国際化			
指標名	京都市国際交流会館登録ボランティア数（人）				
担当部署	国際化推進室		連絡先	2 2 2 - 3 0 7 2	
1 指標の説明					
京都市国際交流会館に登録するボランティアの数					
2 指標の意味			3 算出方法・出典等		
住むひとにも訪れるひとにも魅力的な国際都市への進捗状況を示す指標			出典：（公財）京都市国際交流協会調べ		
4 数値					
10年後（令和2年度）の目標値	平成23年度評価値	令和2年度目標値	根拠		
	421	800	過去最高値（平成20年度406人）から倍増		
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	単年度目標値	
				数値	根拠
数値	728	787	59人増	769	過去最高値（平成20年度406人）と令和2年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（年約33人増加）
	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-			-	
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			当該指標については、市民や民間団体の自発的な活動意思によるところが大きいことから、80%以上をa評価とし、以下20%刻みで基準を設定した。		平成30 令和元 令和2
					a a a

指標名	コンベンション開催件数の世界順位（位）				
担当部署	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6 - 2 2 5 5	
1 指標の説明					
1年間に京都市域内で開催された会議で、3箇国以上での持ち回りの開催実績があり、総勢50名以上の参加者総数、かつ定期的に開催している国際会議件数の世界順位					
2 指標の意味			3 算出方法・出典等		
経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標			出典：国際会議協会（ICCA）「国際会議開催統計」		
4 数値					
10年後（令和2年度）の目標値	平成28年度評価値	令和2年度目標値	根拠		
	56	35	京都市MICE戦略2020		
	前回数値 平成30年	最新数値 令和元年	推移	単年度目標値	
				数値	根拠
数値	41	35	6位上昇	37	平成25年実績（55位）と令和2年目標値から各年度の目標を等差的に設定（年2.86順位上昇）
	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	35位（世界）	35	令和2年	100.0%	
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		平成30 令和元 令和2
					a a a